委員 会 審 議

総務委員会

補正予算について

問 神明苑の整備事業に国庫補助金4千997万円、市債3千580万円、温泉施設整備基金からの繰入れ1千400万円を充てるとのことだが、この市債の額と基金からの繰入額の根拠は。

答 この事業については、一般補助施設整備事業債という起債が充当可能であり、充当率は90%で、事業費から国庫補助金や起債の対象とならない額を除いた額の90%の3千580万円を市債で充てることとした。また、借入額のうち30%が交付税措置され、後年度戻ってくる有利な起債が使えるため、上限まで充当し、残りの一般財源分に基金を充てるものである。

問 温泉施設整備基金の残高は。

答 この基金は平成26

年に設置し、その原資は、その年の入湯税相当額を積み立てるものであり、平成26年は2千800万円、27年・28年は2千700万円ずつ積み立て、29年3月末で8千200万円。今回そのうちの1千400万円を取り崩す。

問 28年度補正予算の中で、法人市民税の歳入減の主な要因は。

答 決算見込みにおいて前年度比で約1億2千500万円の減額、28年度当初予算比で約1億5千100万円の減額となる見込み。主な要因は、一部事業所等において主力製品の需要減少、設備投資などによる償却費の増加などで減益となっており、27年度の納税額上位20社合計で28年度は約1億4千500万円の減額となっている。

産業建設委員会

野菜集出荷貯蔵施設機械等整備について

問 この事業を行うにあたり、プロッコリーをはじめとする野菜の生産、販売の向上を目的としているが、プロッコリーの生産農家の確保や若手生産者の育成、「さばえさんどもむプロッコリー」のブランド化について、どのような取組を行っているのか。

答 担い手の確保についてはJAと協力して進めており、若干ではあるが、若手の生産者が増えてきている。「さばえさんどもむプロッコリー」のブランド化においては、成分分析等を行い、ほかの作物との違いを調べて差別化を図り、付加価値を付けることで単価を上げるなど、ブランド化を進める方法を模索しているところで、機械

等整備を行うにあたり、プロッコリーをはじめとする野菜の生産、販売の向上を目的としているが、プロッコリーの生産農家の確保や若手生産者の育成、「さばえさんどもむプロッコリー」のブランド化について、どのような取組を行っているのか。

市道路線の舗装整備について

問 5件の認定路線のうち、1か所で透水性の舗装を施工した箇所があった。透水性の舗装を採用した理由は。

答 これは貯留・雨水対策として、側溝に流れる雨水をできるだけ少なくし、地下に浸透させるためで、今回企業の協力を得てこの舗装を行った。

要望 今回は企業の協力で施工したとのことだが、都市計画の観点から市全体の雨水対策を考えると、透水性の舗装が必要な箇所での開発行為においては、市で予算を持つてでも採用すべきである。今後ぜひ検討していただきたい。

ブランドの確立や生産者の増加につながるよう努力していく。

教育民生委員会

一般会計予算

多機能型健康福祉施設整備費

問 神明苑の客室のバリアフリー化や洋室への改装とのことだが、これまでの客室の利用状況は。

答 平成28年度は客室全体の定員80名に対して15%の1日平均12名の利用となっている。

問 児童クラブ施設整備費

問 北中山小学校の空き教室を活用した児童クラブ施設の整備ということ、今後、市内の他の小学校の空き教室も学校以外の用途で積極的に活用していくのか、その方向性は。

答 両親ともが働いている保護者が多いこと

を鑑みると児童クラブを開設する必要があり、神明小学校、豊小学校、河和田小学校と今回の北中山小学校が学校内で行うもので、他は民間の施設や児童館を活用している。小学校それぞれで児童数の増減により、児童クラブ定員との差が多い所と少ない所があり、児童館の統廃合についても検討しなければならぬ時期にさしかかっている。学校管理や空き教室などの問題もあり、教育委員会との協議が必要だが、児童たちの移動が少なく、安心して行える学校内での児童クラブも検討していかなければならないと考えている。

問 小学校での児童クラブ運営開始に伴い北中山児童センターの解体の話も出てくると思うが、今後のスケジュール